

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立鴻巣女子高等学校)

目指す学校像	(1) 自立した女性の育成 (2) スペシャリストの育成
--------	------------------------------

重点目標	1 学習環境の整備と事前学習等の授業改善を通して、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 外部機関と連携しきめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な自己実現を支援する。 3 多彩な学校行事や規律ある高校生活を通して、生徒一人一人を大切にす指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、地域に貢献する学校づくりを推進する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	学習環境づくりの指針、「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「朝読書」が徹底して、大半の生徒は落ちついて学習活動を行っている。また、家庭学習時間が増加傾向にあり、自ら学ぼうとする姿勢が向上している。今年度は、各生徒に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせるようにして、学習意欲や学力向上を図る。	生徒一人ひとりに学科・教科ごとの具体的目標を持たせ、学習意欲や学力を向上させる。	①授業毎に年間・学期の学習計画や振り返りを丁寧に行い、各自の学習意欲を向上させる。(各学期:授業担当) ②授業外の学習(課題・予習・復習)を具体的に指示する。(通年:授業担当) ③考查期間等下校時間を徹底して、家庭学習時間を確保する。 ④授業評価アンケートを行い、年度内授業改善に活かす。(1学期末:授業担当) ⑤各種研修会や授業公開週間の実施、県の事業を活用して、教員間の学び合いを充実する。(年3回以上)	①③④学習意欲と学力向上の意識高めた生徒の割合(85%) ②家庭学習時間の状況と成果 ④研修会等の実施状況と成果			
2	自立した女性の育成を目指し、外部機関と連携しながら、本校の生徒現状に沿った体系的な進路指導を行い一定の成果を得ている。今年度はこの取り組みを充実するとともに、一人ひとりの進路希望に寄り添い、家庭との情報交換等、連携を図りながら、キャリア教育や進路指導、進路決定をしていく。	生徒一人ひとりが自己理解を進めるとともに、将来に向かって積極的に考えるように、進路指導やキャリア教育を向上する。	①基礎力診断テストの結果を活用して、生徒実態を把握する。(5月:進路部・学年) ②進路の手引きを定期的に使用して、進路行事・キャリア教育の振り返りを行う。(通年:学年・クラス) ③進路希望調査、二者面談、三者面談を実施して個々の進路希望状況と相談を行う。(各学期:担任) ④講演会や相談会など、保護者への進路関連行事を実施する。(年3回以上:進路部)	①テスト結果の分析と活用状況 ②③進路意識を高めた生徒の割合(80%) ④保護者の進路行事参加状況と成果			
3	保護者アンケートによると、学校生活のなかで、「社会人としてのマナーを身につけて欲しい」「良好な人間関係を築くことができるコミュニケーションスキルを高めて欲しい」という要望が高い。また、個別の支援や配慮を必要とする生徒への組織的な対応が望まれている。今年度は、基本的な生活習慣を確立し、学校生活を中心に自己管理能力を育成するための、具体的な取り組みを行う。また、様々な個別の支援に組織的に対応する、校内体制を充実していく。	生徒の自己管理能力の育成、各種の個別支援体制を改善する。	①生徒手帳の使用方を説明して自己のスケジュール管理を徹底させる。(4月:クラス担任) ②各種のマナーの向上や良好な人間関係の構築、SNSトラブル等に関する講演会、学習会を実施する。(年3回以上:生徒指導部、在り方生き方に関する教育推進委員会) ③荷物ダイエット等、日常的に整理・整頓できるように粘り強い指導を行う。(通年:学年) ④不安や悩みを持つ生徒への教育相談やカウンセリング機能を整えて実施する。(体制整備4月:特別支援推進委員会)	①②③学校生活アンケート調査結果による成果と前年度比較 ①自己管理の意識を高めた生徒の割合(80%) ④個別支援に関するアンケート項目の肯定的回答(80%)			
4	地域との連携や交流事業を年々変化・充実して開かれた学校づくりを推進している。また、文化祭・体育祭等の学校行事は来場者が増加している。今年度も学校外と積極的に関わり、地域コミュニティ一翼を担っていく。生徒の活躍の場を拡げ、自己肯定感や自己有用感を持たせることで、WIN・WINの関係づくりに学校全体で取り組んでいく。	生徒の活躍の場を拡げ、自己肯定感や自己有用感を向上する。	①多くの生徒が地域交流や学校行事に参画できるように丁寧に粘り強く指導・支援する。(通年:特別活動部、教科担当) ②各種の体験活動、県の事業活動の内容改善を図る。(通年:教科担当) ③新規のイベント、ボランティア要請に対応、適切に参加できるように支援する(通年:担当) ④生徒の活躍を知らせる、学校便り作成・HP掲載・横断幕掲示を充実する。(通年:担当)	①③④地域交流等の実施状況と成果 ①学校行事に積極的に参加する生徒の割合(90%) ②③体験活動、ボランティア参加等に関するアンケート調査結果による成果と前年度比較			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	年	月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		